

パラスポーツを普及するために
—必要とされる課題・改革—

龍谷大学 松畑ゼミ B

○早川 太悟 宮本 幸亮 杉下 啓輔 古瀬 菜々子
青木 友希 西村 厚佑 尾崎 俊人 立入 康平

1. はじめに・緒言・研究の背景など

(1) 2020年に東京オリンピック・パラリンピックを迎える日本だが、メディアを見ていてもオリンピックには焦点があてられるが、パラリンピックについてはまだまだ光があたっていない現状にあると考える。私たちのチームの研究では、「障がい者スポーツ」がより日本で発展していくために、どのような課題をクリアしていけばオリンピックなどの「健常者スポーツ」のように普及していくのかについて研究する。まず、「する」人口・「見る」人口・「支える」人口全てにおいて認知度が低く、その存在自体が知られていないことが問題だと考えた。そのため、どのようにパラスポーツの認知度が上がり普及すればいいのか課題を見つけていきたいと考える。最近では、ウィルチェアラグビー日本代表が世界大会で優勝するなど、パラスポーツについても世界で十分に戦える競技もある中で、まだまだその存在が知られていないというのが問題であると考え。

(2) また現在、龍谷大学のサッカー部には、堀井聡太選手という理工学部2回生に難聴持ちの選手が在籍している。彼は、大学のサッカー部で、健常者である仲間と共にトップチームの一員として日々練習を行ったり、試合に出場したりと活動する一方で、日本ろう者サッカー協会に所属し、男子サッカー代表として国際大会などにも出場し活躍している。今年は、日本代表としてアジア選手権準優勝という好成績を収めている。実際にパラスポーツ（デフサッカー）を行っている、堀井選手の生の声を聴き、パラスポーツを「する」・「見る」・「支える」という3つの視点から普及課題を見つけられればと考える。

2. 研究方法・結果

(1) 学内でパラスポーツの認知度アンケートを実施した。本調査は、一般の大学生がどれくらいパラスポーツ、パラリンピックのことを知っているのかについて、龍谷大学の一般教養科目「現代社会とスポーツ」受講者計242人に協力いただいたものである。

図1では、どのくらいの人がパラリンピックについて知っているのかについてのアンケート結果であるが、パラリンピックを知っている人の割合は多いことがわかった。

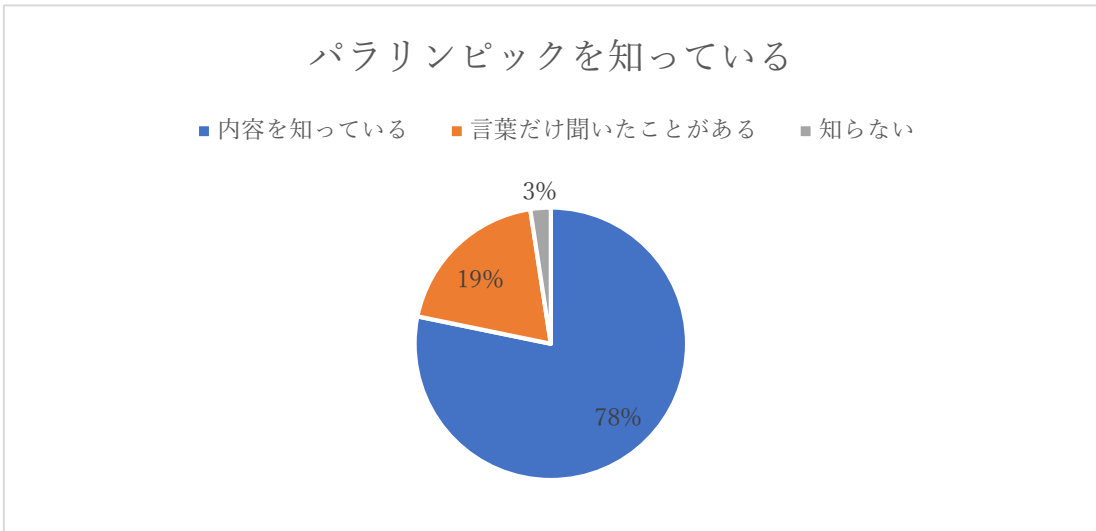


図1 パラリンピックの認知度

次に、実際にどのようにしてパラスポーツのことを知ったのか。図2を見ると、圧倒的にテレビ番組でパラリンピックのことを知った人が多いことがわかった。また近年は、ネット社会になりつつあるため、インターネットを通して知る人も多くなっているのではないかと考える。

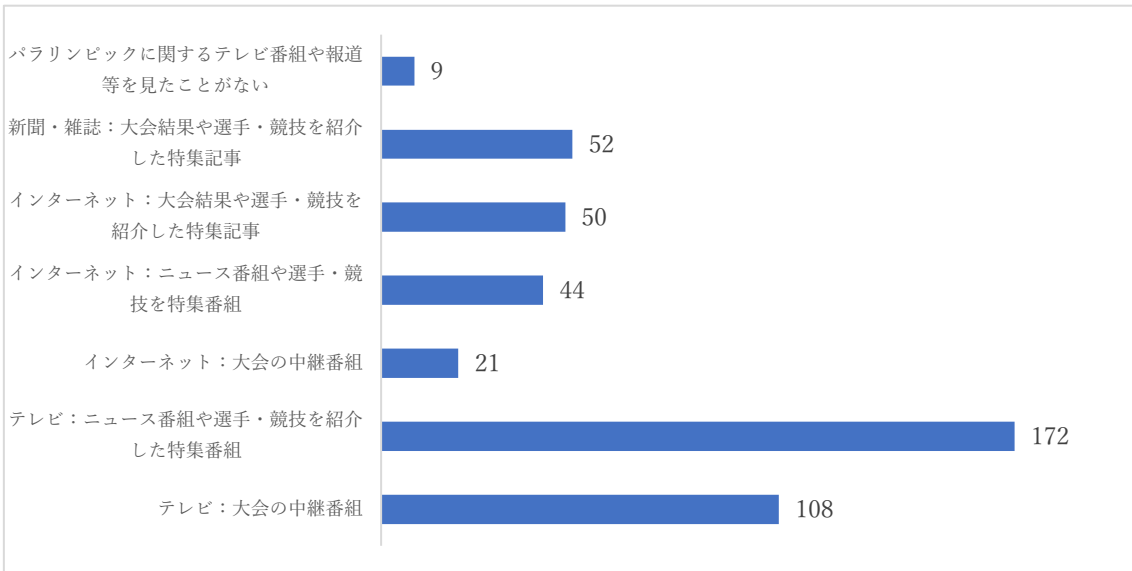


図2 パラリンピック メディア接触状況

図1でパラリンピックの内容を知っていると回答した人の中にも、出場資格がない聴覚障害者や精神障害者がパラリンピックに出場できると回答している人が多く見受けられた(図3)。聴覚障害のある方たちは、デフリンピックに出場する。このように知っているよ

うであり知られていないのがパラスポーツ認知度の現状であると言える。

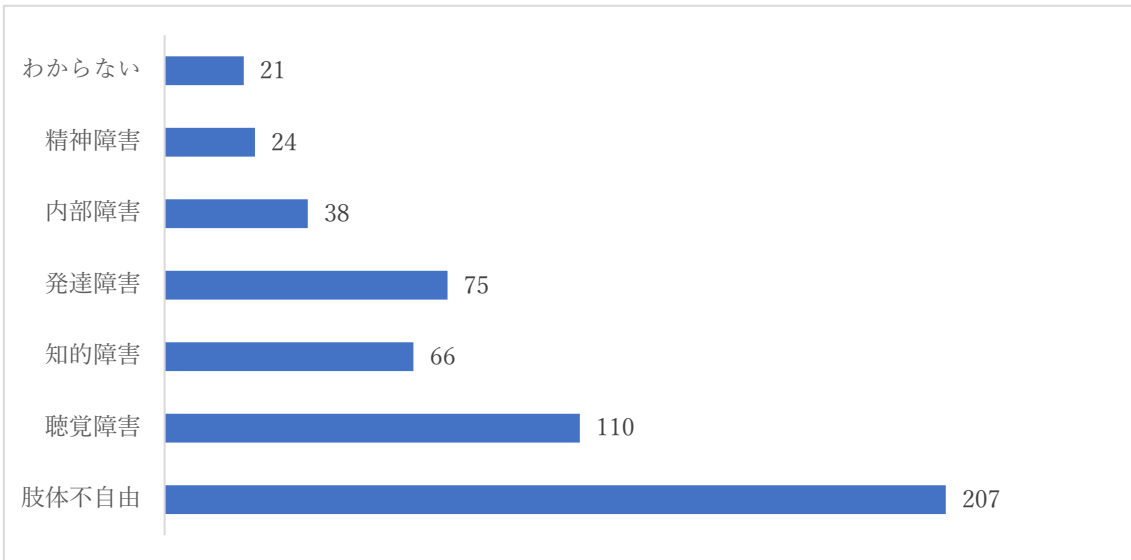


図3 パラリンピック参加対象障害の認知

また、図4にある通り、パラスポーツを直接観戦したことのある人の割合が約15%しかいなかった。一方、約80%の人がパラスポーツを直接見たことがないと答えたが、その理由として、行く機会がない、場所がわからないなどの意見が多く上がった。このことから、パラスポーツの開催場所の告知、機会を増やすことが必要なのではないかと考えられる。

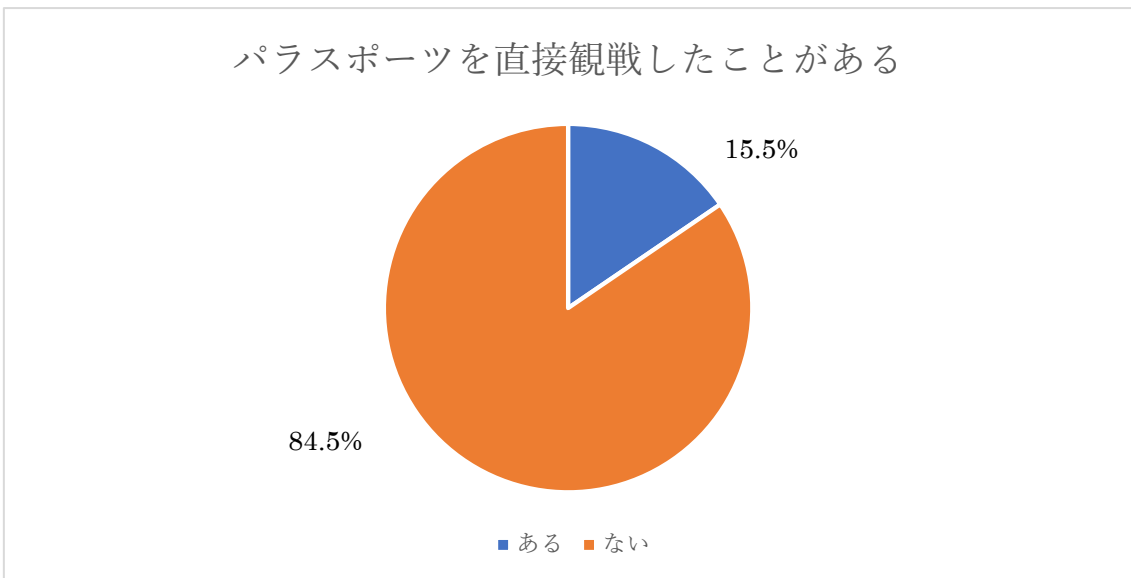


図4 パラスポーツの直接観戦経験

(2) 堀井聡太選手にパラスポーツについてインタビュー

パラスポーツ選手自身の願いを堀井聡太選手にインタビューしたところ、「聴覚障害者はパラリンピックには出ることができません。聞こえないだけで他は健常者と同じです。ですので、オリンピックに出場することが可能です。ですが、オリンピックに出場することはハンデがある分難しいため、デフリンピックに出場することになります。そのデフリンピックを世界中の人たちに知ってもらいたいです。」と答えていただいた。より多くの人たちにパラスポーツのことを知ってもらうことが普及への近道だと選手自身は考えていることがわかった。

3. まとめ

今回、堀井選手にインタビューするなど、パラスポーツに関してより深く調べていくにつれて多くの人々がパラリンピックに関して正確に認知できていないということがわかった。正確に認知してもらうためには、メディアでの露出を増やすことが重要であると考えます。またその他にも幼い頃からパラスポーツに触れる機会を増やすことも必要であると考えます。それらのきっかけ作りとして、まずパラスポーツを知ることから始めるべきである。

<参考文献>

- ・ パラスポーツ 障害者スポーツ特設ページ
<http://www.asahi.com/sports/events/parasports/>
- ・ パラスポーツとは TEAM BEYOND
<https://www.para-sports.tokyo/sports>
- ・ 日本財団パラリンピック研究会「国内外一般社会でのパラリンピックに関する認知と関心」調査結果報告
http://para.tokyo/doc/survey201411_2.pdf